

平成28年(2016年)3月4日(金曜日)

レアメタル資源
再生技術研究会

岐阜でオープン 合同分科会開催

希少金属の回収、再資源化などの技術研究組織のレアメタル資源再生技術研究会(会長・藤田豊久東京大学大学院工学系研究科教授)は3日、会員、非会員を問わず参加が可能なレアメタルの資源再生にかかわる講演会

「オープン合同分科会」を岐阜県各務原市の岐阜県テクノプラザで開催した。当日は金属製錬メーカーの技術担当者ら、関係者約40人が参加し、東海地区大手鉄スクラップヤード業者の大脇商店(岐阜県各務原市)の岩田和也常務が「ネオシム磁石スクラップからの

ネオシム、ジスプロシウム回収事業」について講演した。

今回の分科会は「レアメタル・レアアース問題の現状と経済合理性のあるリサイクル」をテーマに全4講演を行ったほか、意見交換会やシーエムシー技術開発(岐阜県各務原市)が開発したモバイルリサイクル用レアアース回収装置の見学会を催した。

開会に先立ち、河邊憲次同研究会モバイルリサイクル分科会幹事は「研究会にネオシム磁石分科会など3分科会があるが、分科会の研究成果やレアメタル回収新技術について、報告したい。今回の企画をきっかけに、技術開発に関する議論がさらに活発になれば良い」と挨拶した。きょう4日は、名古屋市工業研究所で会員向けの技術発表や情報交換を行う研究会を開催する。



挨拶する河邊幹事